－1DAY連続講座－

発達障害のある人の青年期以降の余暇を考える

ゲーム・ネットフリークの家族がいるとき

2026.01.18 SUN

会場 船橋市浜町公民館
千葉県船橋市浜町2-1-15
（京成大神宮下駅徒歩7分　JR南船橋駅徒歩15分）

対象 発達障害のある方の家族及び支援者
発達障害のある当事者
地域の関心のある方々

誰でも成長とともに自分の余暇を考える時期が来ます。

遊びを通じて豊かな時間を過ごしてほしい。
でもゲームやネットにのめりこみすぎも心配。
自由な時間を自分で組み立ててほしい。
けれど、ちゃんとできる？　できるようになる？
見守る家族も複雑です

そこで、こどもたちの遊びと育ちの世界に詳しい複数の先生方をお招きして、すぐ隣のゲームやネットの世界をわたっていくヒントを伺います

参加費無料　定員200名

開場時間　09:30～

第1部　10:00～
楽しみを通じた「場」の継続性
－TRPGを通じた関係性を考える－
講師：加藤 浩平 氏
東京学芸大学 非常勤講師、教育学博士
金子書房・金子総合研究所所長
（内容の詳細については裏面をご覧ください）

昼休憩　12:00～13:00（予定）

第2部　13:00～
総合診療医はゲームの問題にどう取り組んでいるのか？
講師：近藤　慶太 氏
総合診療医　一般社団法人Dr.GAMES代表理事
（内容の詳細については裏面をご覧ください）

第3部　13:30～
青年期の自閉スペクトラム症やADHDとSNSやゲームの世界
講師：関 正樹 氏
児童精神科医　医療法人仁誠会 大湫病院
（内容の詳細については裏面をご覧ください）

休憩　15:30～15:45（予定）

第4部　15：45～
成人期の余暇とゲーム・インターネット
各講師による意見交換
（全体を通しての質疑応答を含む）

閉会　～16：30（予定）

船橋市自閉症協会・千葉県自閉症協会willクラブ共催　後援・船橋市教育委員会

お申し込み・お問い合わせ

お申し込みGoogleサイトアドレス：https://forms.gle/8QxogjYv7qRQEJEU9
申し込み締め切り：2026年1月8日（先着順）

willclub.chiba@gmail.co　070-8358-2484　公式LINE　@792zjoaa
船橋市自閉症協会（かもめ会）：https://funabashikamome.jimdofree.com/
千葉県自閉症協会高機能事業部（willクラブ）：https://www.c-sqr.net/c/cs25560

第1部　10:00〜12:00予定

楽しみを通じた「場」の継続性 ―TRPGを通じた関係性を考える―

TRPG(テーブルトーク・ロールプレイングゲーム)とは、複数名で集まってテーブルを囲み、参加者同士の会話のやり取り（コミュニケーション）で架空の物語を進めていく「会話型ゲーム」の総称です。
『ドラゴンクエスト』などのコンピュータのRPGのシステムや世界観はTRPGが元になっています。ただ、TRPGは基本的にコンピュータを使用しません。代わりに、紙と鉛筆、ダイス（サイコロ）、そしてルールブックを使用して物語を作り上げていきます。一見、発達障害のある子どもや若者には不向きな遊戯にも感じられますが、構造化された安心して自己開示できる環境で、子どもたちはコミュニケーションを楽しみながら冒険物語を楽しんでいます。
活動が継続していくと、生まれたコミュニケーションがゆっくり育っていきます。
その育ち方は一方向ではありません。広がり方・深まり方がユニークなこともあります。
今回は長く、緩く繋がることから育っていくコミュニケーションと社会性の育ち、そしてそれぞれのクオリティオブライフについてを考えます。

【講師プロフィール】
東京学芸大学教育学部研究員・非常勤講師、金子書房・金子総合研究所所長、博士（教育学）。
編集者として専門書（心理・教育）の企画・編集に携わりつつ、大学の研究員として、発達障害のある子どもや青年たちの余暇活動支援・コミュニケーション支援の実践・研究に取り組んでいる。
主な著書に『発達障害のある子ども・若者の余暇活動支援』（2021年、金子書房）など。

第2部　13:00〜13:30予定

総合診療医はゲームの問題にどう取り組んでいるのか？

総合診療医をご存じですか。昨今『19番目のカルテ』でも描かれた、地域で幅広い悩みに向き合う新しい専門医です。私たちは一般社団法人Dr.GAMESとして、総合診療医が中心となり、2021年から「医療 × ゲーム」で人々を健康にするべく活動を続けています。本講座では、総合診療医が発達障害とゲームに伴う課題にどう向き合い、どのように診療・支援へつなげるのかを紹介します。あわせて、Dr.GAMESの活動の狙いと目指す社会像についてもお話しします。

【講師プロフィール】
埼玉県出身。総合診療専門医、家庭医療専門医。学生時代は謎解きイベント制作者として、慶應義塾大学公認謎解き制作団体K-dush2を設立。2016年、慶應義塾大学医学部を卒業。JA長野厚生連佐久総合病院・佐久医療センターで初期研修修了。2018年4月より、亀田ファミリークリニック館山家庭医診療科で後期研修。2024年4月より順天堂大学総合診療科に所属。2025年4月よりJメディカルおゆみのにて内科・整形外科外来を担当。家庭医としての総合診療科、スポーツ内科での診療の傍ら、2021年4月より一般社団法人Dr.GAMESを立ち上げ、ゲーム×医療で人々を健康にするべく活動している。

第3部　13:30〜15:30予定

青年期の自閉スペクトラム症やADHDとゲーム・ネットの世界

現代社会は既にインターネットにつながることを前提に動いています。
今の子ども・青年達にとってそれは生まれた時からあるのが当然のもの。そして、発達障害のある人たちにとっては相性が良すぎてのめりこみやすいものでもあります。
「スマホやゲームの利用開始にあたっては親子で約束を」「のめりこみすぎないように促しながら本人自身に考えさせましょう」といった児童期の育て方のアドバイスはあちこちに既にあふれています。
でも大人になった、またはなりつつある人たちに「親との約束」をいつまでもは振り回したくない。
同じ家に暮らす親と子がライフステージの変化によって大人同士の関係を結びなおすときに、「一つのことに集中しやすい」特性を持つ人たちの家族としてどの様にゲームやネットと向き合えばいいかを考えます。

【講師プロフィール】
関正樹（せき・まさき）
スプラトゥーンが下手だけど好きな児童精神科医。
平成15年3月福井医科大学医学部卒業。岐阜大学医学部付属病院精神科、土岐市立総合病院精神科を経て、平成19年8月より大湫病院に勤務。地域の児童精神科医として発達障害や不登校の子どもや家族の支援を行っている。
主な著書に、『小児科医・かかりつけ医に知ってほしい発達障害のこと』（2022、南山堂）、『子どもたちはインターネットやゲームの世界で何をしているんだろう?――児童精神科医からみた子どもたちの「居場所」』（2023、金子書房）などがある。
NHK「ウワサの保護者会」出演。